

プログラミング教育と

道徳指導の充実を



一山 稔 議員

小学校で、なぜプログラミング教育が必要か、教師に教えられるかと心配する声もあり、学校の情報通信技術環境整備も課題とされるが計画等はどうか。

道徳が「特別の教科」になるが、実態を踏まえた対応が求められている。道徳の時間では、どのような取り組みをしてきたのか、家庭や地域の人達との連携、連絡や話し合いは取っているのか。今後、道徳の時間を増やすこと、研修体制の充実、学校でのリーダー養成への計画、取り組みはどのようになっているのか。

【答】 峯野教育長

子ども達が早い時期からプログラミングになじみ、思考力や創造力を育んでいくことは重要で、指導に不安を抱える教師もいると思うが、企業と連携した取り組みの中で、レベルアップを図る。今後、国の地方財政措置の活用を図りながら、ICT環境の整備に努めていく。

「道徳の時間」は価値の自覚を深め、実践力を育てる指導を行っており、公開授業など、保護者や地域の方にも連携した取り組みを進めている。時間の増加はないが、心理解が中心から「考える道徳」「議論する道徳」へと「道徳教育推進教師」が中心となり、目標や指導内容、研修体制の充実・改善を図っている。

「ネット依存」と「ながらスマホ」

への指導徹底は

【問】 一山議員

子どものネット依存について、保護者と学校、教育委員会が協議し、工夫しながら取り組む市町村があり、成果を上げているが、「ネット依存」「歩きスマホ」「ポケモンGO」などに対する児童、生徒への指導はどのようにしているのか、問題点はあったのか、対応はどうか、保護者と話し合い等はどうか、情報モラル教育充実への計画はしているのか。

本町は「携帯電話」「ポケモンGO」「ながら歩き」「ながら運転」への注意、啓発は住民にはどのようにしているのか、また、今後の取り組みは。

【答】 福井町長

「歩きスマホ」「運転スマホ」防止の啓発や注意喚起を町のHPや広報等で行

っているが、今後、関係機関と連携し、継続的な取り組みを進めていきたい。

【答】 峯野教育長

「情報モラル教育年間指導計画」を策定し取り組みしており、スマホも外部講師による「携帯、スマホ安全教室」を行っている。

事件、事故等の報告は受けていないが、保護者に対し「地域子ども安全会議」を開催し、把握に努め指導に生かしている。

話題性の高い案件は、文章配布等で注意喚起を行い、保護者の理解と協力を求め、指導計画に基づき学習を行うとともに道徳の時間、学校教育全体を通して、思いやる気持ち、正しい判断力、社会的ルールやマナーについて指導の充実を図っている。



小学校5・6年生対象の「スマホ・ケータイ安全教室」